

4. 情報サービス

4.1 電子メールシステム情報サービス

押久保 智子、橋本 清治、飯田 好美、佐々木 節

4.1.1 概要

電子メールシステム（KEKmail と称す）は、共通情報システムの一部として導入され、研究系用電子メールシステム(PostKEK と称す)と管理局系電子メールシステム（MailKEK と称す）からなり、冗長化構成による 24 時間 365 日無停止運用を行なう機構電子メール環境の中核をなすシステムである。現システムは、2008 年度から運用してきたが、2011 年度は共通情報システムリプレースの年であり、KEKmail も更新をした。システム更新に際しては、運用を停止することなく実施している。

4.1.2 活動報告

4.1.2.1 次期 KEKmail システム構築

2010 年 8 月から次期システム導入に向け仕様策定を開始し、2011 年度は仕様書の作成と、それに基づきシステムを構築した。次期システムの構成は、性能向上と機能の追加及び改善を行ったが、旧システムとほぼ同じ構成とした。新たな機能として、ウィルスの侵入防止強化のため、Cisco Virus Outbreak Filter を導入した。

次期 KEKmail システム構築に向け、2011 年 11 月から 2012 年 2 月までの間にメールサブグループの打ち合わせと新機能の動作確認、ユーザリソースの決定、管理アドレスの整理等を実施した。IMAP プロトコルを利用してメールをスプールに保存しておくユーザが増えてきているため、1 ユーザあたりのメールフォルダのサイズを 500MB から 1GB に増量した。また、メーリングリストの投稿メールサイズについて、投稿者が限定できないカテゴリのメーリングリストは 1MB から 5MB へ、投稿者が限定できるカテゴリのメーリングリストは 5MB から 10MB へと増量した。

4.1.2.2 システム移行とユーザ対応

電子メールは研究及び業務に不可欠なものとなっており、ユーザからの強い希望もあったため、システム移行にあたってはメールの配信を停止することなく実施することにした。そのため、2012 年 1 月 20 日夜にメールの配信を新システムに切り替え、同日から 2 月 22 日まで新旧システムの並行運用を行うこととし、サーバ上のユーザ保存メールの移行は、並行運用期間内にユーザ自身に行っていただく方法をとった。但し、メーリングリストの

保存メールの移行に関しては、システム管理者が操作を行わなくてはならず、半日以上運用を停止した。ユーザクライアントソフトの設定を変更することなく運用を継続させるため、ホスト名等も新システムに引き継いでいる。

新システムに移行するにあたって、ユーザへの説明会と保存メール移行のための詳細な手順書を準備した。また、保存メール移行の実地講習会を2回実施した。

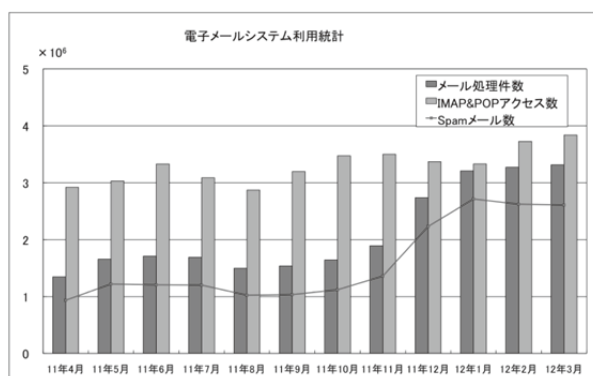
4.1.2.3 KEKmail の運用報告

5月下旬から8月下旬に、継続利用手続き作業を実施した。2009年度に定めた方法に則り、CCDBと管理局から入手した職員情報をもとに部局毎のチェックシートを作成し、利用者による継続利用手続きの前に、部局の長にデータのチェック（更新、削除、自己更新）を依頼した。その結果に基づき、7月に利用者による更新手続きを実施した。

機構計画停電時の8月17日には10:00から13:00までシステム運用を停止し、ファイルサーバのメンテナンス作業を実施した。

4.1.3 運用統計

KEKmailの登録アカウント数は、2011年7月の継続利用手続き前には1,524あり、手続きの結果、79アカウントを停止した。運用アドレス総数は約5,500である。メール処理件数は2,550万通/年で、前年より15%程増加している。処理件数のうち約3/4はスパムメールとして検知されている。IMAPとPOPを合わせたアクセス数は月平均330万件となっている。WebMail接続数は月平均約3.1万件で昨年より増加している。（利用統計グラフ参照）



ウイルス検知件数は年間3,985件で、昨年度より減少している。ウイルス検知件数グラフ中の送信件数に関しては、パスワード付きファイルや、拡張子がスキャン対象外のunscannableメールである。（ウイルス検知件数グラフ参照）

メーリングリストの登録数は、2011年7月の継続利用手続き前には606あり、手続きの結果33リストを削除している。

